

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>事業全体 (2 年間) : ドホーク県シャリヤ地区の国内避難民キャンプ及びホストコミュニティにおいて、キャンプ住民が衛生的な水環境に継続的にアクセスし、若者・女性が自立して生活できるようになる。</p>
	<p>今期事業 (第 1 年次) 達成目標 : 住民参画を通じた国内避難民キャンプ水衛生環境の維持・改善、コミュニティ連携強化、生計能力向上が持続的な形で継続されるための体制を整える。</p> <p>達成度 : 成果のそれぞれの指標において 100%達成していることから本事業における今期事業のプロジェクト目標である「住民参画を通じた国内避難民キャンプ水衛生環境の維持・改善、コミュニティ連携強化、生計能力向上が持続的な形で継続されるための体制を整える。」は 100%達成することが出来たといえる。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) シャリヤ国内避難民キャンプ水衛生支援 1-1 現地政府・水衛生クラスター・キャンプマネジメントとの調整 ドホーク県の多くの国内避難民の避難生活が長期化している現状のもと、現地政府はより持続性のある国内避難民キャンプ運営体制の確立に向けた方策検討を行っている。2020 年まではクルド人自治区内で県ごとにシリア難民・国内避難民キャンプの管轄体制が異なっていたが、予算確保や運営が安定しないため、クルド人自治区全県のすべてのシリア難民・国内避難民キャンプを管轄する新規部局として緊急支援担当局 Directorate of Migration and Crisis Response (DMCR) が設立され、本事業申請時に統括を担当していたドホーク県現地政府機関・Board of Relief and Humanitarian Affairs (BRHA) は廃止された。DMCR の統括のもとで現地 NGO であるバルザニ・チャリティ・ファウンデーション Barzani Charity Foundation (BCF) が、全キャンプのキャンプマネジメントの運営面を請け負う体制が 2020 年より全キャンプにおいて導入された。それに伴い、2021 年当初にはキャンプマネージャーはじめキャンプマネジメント運営スタッフの大規模な人事異動が行われた。当団体は、ドホーク県の全体調整会議 (General Coordination Meeting: GCM)、Camp Coordination and Camp Management (CCCM) クラスタ会議等を通して、これらの体制変更に関する情報を把握しつつ、月次で実施されるドホーク県の水衛生クラスター会議、緊急生計クラスター会議、シャリヤ国内避難民キャンプ内で行われるキャンプ調整会議にも欠かさず出席し、綿密な調整と協議、活動報告を通して、新しい管轄部署・スタッフとの協力体制を確立した。</p> <p>また、2021 年 6 月にシャリヤ国内避難民キャンプ内で発生した火事でキャンプ内 (セクター B) の約 400 のテントが被災したが、翌日、ドホーク県緊急支援担当局が「ドホーク県の国内避難民キャンプにおいて (今までは禁じられていた) コンクリートや泥レンガ等の住居を建設してもよい」という許可を通達し、2022 年 1 月末現在、上述の火事で被害を受けたテントのみで、BCF の支援によりコンクリート製シェルターが建設された。また、この火事をきっかけに、クルド自治政府、キャンプマネジメント、CCCM クラスタの間で、長期化する避難生活の中、(シャリヤ国内避難民キャンプを含む) 特に住環境・水衛生環境が厳しいキャンプの改善の必要性についての議論が活発化しており、キャンプ全体についても、シェルターを現状のテントからコンクリー</p>

トや泥レンガに変更し、地中に上下水網を設置の上、戸別トイレを建設する計画について、協議が開始している。

ドホーク県における新型コロナウイルス感染拡大については、2020年9月から12月および、また2021年7月から9月に感染拡大が甚大となり、キャンプマネジメントスタッフ、週当たりの業務日数及び時間を最低限に絞ったり、また、現地政府・キャンプマネジメントからの指示に従い、当団体含むNGOの人道支援活動も、最低限必要な活動に制限し、キャンプに出入りするスタッフ数を制限する必要があったため、各種調整には通常以上の時間・日数を要した。他方で、水衛生支援は、特に喫緊かつ重要な活動とみなされているため、十分な感染予防と対策を行いつつ、当団体の支援活動は、停止することなく継続した。

1-2 水衛生設備の維持管理・運営

キャンプ内の全ての水衛生設備（給水管理に関連する設備、下水管理に関連する設備、住民が利用する設備）の日常的な維持管理・運営が継続的に実施された。特に、井戸・給水ポンプ場・簡易下水処理場等の主要設備・機材に不具合が生じた場合、キャンプ住民への水供給及び衛生維持への影響が大きいため、即時に確認の上、修理を行った。

事業期間を通して、合計7,685件のコミュニティ内で住民が利用する水衛生設備（共用トイレ・シャワー、共用取水口等）の日常的な修繕と、合計37件の給水・下水管理にかかる設備の修復が行われた。この活動にあたっては、当団体スタッフが判断、指示、管理のもと、キャンプ住民から雇用する作業員が実際の作業に従事した。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、キャンプ住民から雇用する作業員（水衛生ワーカー）含む全スタッフは、毎日の検温を行い、マスク等の保護具の着用を確実にし、継続的に手洗いや三密を避ける等の対策を行った。

また、水衛生設備の維持管理・運営における実施手順・体制を整理・改善した上で、業務手順書（Standard Operating Procedures, SOP）を作成した。

1-3 水衛生環境改善プロジェクトの実施

水衛生環境改善プロジェクトとしては、キャンプ内の水やトイレへのアクセスの不平等の緩和や、障がい者など脆弱層への配慮を主目的に計画したものであり、2021年2月にアセスメントを実施の上、①共用トイレの修復・改修と②障がい者用トイレの新設のニーズが高いことを確認した。さらに2021年7月より、従来を上回る速度での新型コロナウイルス感染拡大が見られたことに伴い、追加のニーズへの対応として③研修・会合用日よけの設置を実施した。

① 共用水衛生設備の修復に関しては、18棟の共用トイレの修復・改修を2021年4月から5月にかけて実施したが、その後、2021年6月4日にキャンプ内で発生した火事により、前述18棟の共用トイレとは別の9棟の共用トイレ・シャワー・取水口が半焼・破損したためにその修復が緊急で必要となり、これら追加9棟の共用トイレ・シャワー・取水口修復を2021年6月から7月に実施した。

② 2棟の障がい者用トイレ新設については、複数の世帯でニーズが確認されたうち、障がいの程度や共用トイレまでの距離などを勘案し、キャンプマネジメントと協議の上で、特に緊急性が高いと認識された

	<p>2 棟について、2021 年 9 月に工事を実施した。</p> <p>③研修・会合用日よけの設置については、キャンプ住民から雇用する作業員及びその他のキャンプ住民と日常業務の一環として、ごく小規模な会合や研修を複数実施する必要がある、新型コロナウイルス感染拡大前は、当団体のフィールド事務所として利用しているキャラバン（2.4 メートル x 6 メートル）内で行っていたところ、2021 年 7 月以降の感染拡大を踏まえて、狭い屋内のスペースで会合を持つことは相応しくないと判断し、同キャンプ内当団体フィールド事務所の敷地内に日よけを設置することを決定し、2021 年 10 月に工事を実施した。</p> <p>なお、すべての水衛生環境改善プロジェクトについて、当団体スタッフ現場監督のもと、キャンプ住民から選定する作業員が工事に従事した。さらに活動（イ）の住居修繕技術（電気・配管）コースの実習・インターンシップとして同コースの受講者も同工事に従事した。</p> <p>1-4 コミュニティ啓発活動・KAP 調査</p> <p>当初は、学校における水資源・環境保全、衛生向上などの啓発活動を中心に計画したものの、2020 年 9 月の本事業開始時から 12 月まで、ドホーク県での新型コロナウイルス感染拡大状況が甚大であり、最低限の活動に制限することが現地政府から指示されたため、特に会合や訪問を伴うような活動は実施することができなかった。また、キャンプ内の学校を含む、クルド人自治区の全学校は、年間のほとんどの期間閉鎖されており、開校時にも学校の本来活動を優先する必要があったことから、学校における啓発活動については断念せざるを得なかった。</p> <p>2021 年 3 月から 4 月になり、感染拡大が一時的に落ち着いたため、十分な感染予防対策や社会的距離を保った上での戸別訪問（テント内に立ち入らない）での啓発活動を 2021 年 3 月 29 日から 4 月 12 日の期間において実施した。節水、共用トイレの維持（清潔な利用や、詰まり防止、意図的破損の予防）などのキャンプ内のセクター毎に、水衛生課題を特定の上、できる限り当該セクターに居住するキャンプ住民を動員し、男女ペアでの戸別訪問により口頭でメッセージを伝達する形で活動を行った。本啓発活動期間中にメッセージ伝達側として動員したキャンプ住民数（若者中心）は 10 名（男性 5 名、女性 5 名）、メッセージを受け取った世帯数は 1,620 世帯（4,562 名）である。</p> <p>KAP 調査については、事前調査を 2021 年 6 月 17 日に、事後調査を 2021 年 8 月 8 日に行い¹、水資源・環境保全、衛生向上（新型コロナウイルス感染予防対策含む）に関するキャンプ住民の知識、意識及び行動変容を測定した。測定の結果、特に衛生向上の面において、ポジティブな行動変容が見られた。例えば、新型コロナウイルス感染予防方法としてマスク着用と回答した割合が事前調査では 30%に対し事後調査では 86%、帰宅時の手洗いが重要と回答した割合が事前調査では 0%に対し事後調査では 60%、手洗い方法として石鹸と流水の利用と回答し</p>
--	---

¹ KAP 調査は、事前調査ではキャンプ住民（若者中心）12 名を動員して男女ペア 6 つのチームで、事後調査ではキャンプ住民（若者中心）6 名及び活動（イ）「リーダーシップコース」受講者 8 名を動員して男女ペア 7 つのチームで戸別訪問を行い、インタビュー形式で実施した。インタビュー対象者はキャンプ内の全セクター世帯を網羅するように選定し、2021 年 6 月 17 日実施の事前調査では計 627 名（内、男性 218 名、女性 409 名／年齢割合：17～25 歳が 23%、26～50 歳が 68%、51 歳以上が 9%）を対象に、2021 年 8 月 8 日実施の事後調査では計 580 名（内、男性 188 名、女性 392 名／年齢割合：17～25 歳が 23%、26～50 歳が 69%、51 歳以上が 8%）を対象に実施した。

たのが事前調査では 54%に対し事後調査では 74%と増加した一方で、バケツに水を溜めて石鹸で手を洗うと事前調査で回答したのが 44%に対し事後調査では 25%へ減少した。なお、活動（イ）の「リーダーシップコース」のインターンシップ機会とし、受講者が当団体スタッフとともに、事後調査のインタビューでデータ収集を行った。

（イ）生計能力・コミュニティ連携向上

2-1 プレアセスメント実施

職業訓練コースの企画に先立ち、プレアセスメントを実施した。①ドホーク県労働社会局（Directorate of Labour and Social Affairs: DoLSA）、シャリヤ町役場、キャンプマネジメント、企業や自営業者（建設業者や自営業者）などを対象とした主要関係者インタビュー（10 名対象）、②キャンプ内外の国内避難民とシャリヤ地区ホストコミュニティを対象としたフォーカスグループディスカッション（男性 47 名、女性 43 名、合計 90 名参加）、③受講候補者を対象とした個別アセスメント（男性 124 名、女性 113 名、合計 237 名対象）を実施した。

なお、2020 年 9 月から 12 月まで、ドホーク県における新型コロナウイルス感染拡大が甚大であったため、特に②のフォーカスグループディスカッションについては、実施時期や各グループの人数を調整し、マスク配付や社会的距離の確保、検温などの感染予防を行った上で実施した。

2-2 コース企画・準備

本事業申請段階では、第 1 年次には、「縫製」（45 日間、1 回実施）、「配管技術者養成」（45 日間、2 回実施）、「リーダーシップ」（60 日間、1 回実施）の 3 コース計 4 回、受益者数は 40 人（10 人×4 回）を予定していた。

プレアセスメント結果をもとに、労働市場のニーズと受講候補者からの希望の両方を踏まえた上で、下記 3 種類のコースを選定し、各コースの詳細について、事業申請書に記載した内容と変更が生じたため、各コースについて変更報告書での報告を行った。

①美容・整髪技術（第 1 回 30 日間、第 2 回 33 日間、2 回実施）

②住居修繕技術（電気・配管）（55 日間、2 回実施）

③リーダーシップ（40 日間、1 回実施）

計画したコース内容にそって、講師（及び実施パートナー団体）を選定の上で、講師やパートナー団体とともにカリキュラムを策定し、教材準備、会場手配、受講者選定などを実施した。

なお、「美容・整髪技術」コースの第 1 回と第 2 回の日数の差異については、当初、「30 日間、2 回実施」で事業変更報告書にて報告を行ったところ、第 1 回目の実施後のレビューを踏まえ、より市場のニーズに答えた訓練が実現できるよう、第 2 回において整髪のカリキュラムに 3 日間を追加した理由による。

2-3 コース実施

各コースについて、下表のスケジュールでコースを実施した。

コース名	第 1 回	第 2 回
美容・整髪技術	2021 年 3 月 7 日 ～6 月 10 日	2021 年 6 月 16 日 ～9 月 2 日
住居修繕技術	2021 年 1 月 24 日	2021 年 4 月 25 日

	～5月10日	～7月15日
リーダーシップ	2021年5月23日 ～8月31日	

※実施期間には、インターンシップも含む。

コース受講者（修了者）は合計44名であり、その内訳は、コース毎に下記の通りである。

コース名	男	女	キャンプ IDP	キャンプ外 IDP	ホストコミ ュニティ
美容・整髪技術	0	12	5	5	2
住居修繕技術	20	0	8	8	4
リーダーシップ	6	6	6	4	2

なお、当初申請書においては、コース実施段階および、フォローアップの段階で2回の専門家によるモニタリング・指導を計画していたが、新型コロナウイルス感染予防のための渡航制限の影響により、中止した。

2-4 インターンシップ実施（コミュニティ貢献を含む）

申請書段階においては、各コース25日間のインターンシップ期間を設け、受講者が5日間のコミュニティ貢献と20日間の実務への就業を経験することを計画していたが、各コースの内容を踏まえて、インターンシップ実施期間は住居修繕技術コース以外において、下記のように変更した。

①美容・整髪技術コース 15日間（ボランティアでのコミュニティ貢献活動5日間＋有償（実務就業）10日間）

②住居修繕技術（電気・配管）コース 25日間（ボランティアでのコミュニティ貢献活動5日間＋有償（実務就業）20日間）

③リーダーシップコース 15日間（有償（実務就業）15日間）

ボランティアでのコミュニティ貢献活動期間は、美容・整髪技術コースでは、研修会場を仮美容室と見立て、各受講者が、自らの知り合いやローカル NGO の紹介などで、脆弱層（普段、美容院に行きにくい世帯）の女性を、客として無償で招待し、化粧または整髪の施術を施すという形で実施した。住居修繕技術（電気・配管）コースでは、5日間のコミュニティ貢献は無償ボランティア活動として、学校やコミュニティセンター等、コミュニティにおける公共施設の修繕を実施した。

有償のインターンシップ期間は、事業目的を踏まえ、また今後の就業機会につなげやすくするため、美容・整髪技術コースと住居修繕技術（電気・配管）コースにおいては、シャリヤ町における雇用主のもとでのインターンシップ受け入れ先を探し、調整した。美容・整髪技術コースでは、各回3カ所の受け入れ先において、サロンオーナーや職員の監督のもとでアシスタントとして、顧客に対する施術（化粧及び整髪）に従事した。住居修繕技術（電気・配管）コースでは、各回2カ所の受け入れ先において、雇用主または従業員の監督のもと、新設住居やビルにおける配管、電気配線などの実務に従事した。

また住居修繕技術（電気・配管）コースでは、シャリヤ国内避難民キャンプでの活動（ア）の1-3 水衛生環境改善プロジェクトの工事の一部にも従事した。リーダーシップコースでは、シャリヤ国内避難民キャンプ、シャリヤ町、シャリヤ村のコミュニティのためのアクションプ

	<p>ランの策定と実践、および、シャリヤ国内避難民キャンプにおける KAP 調査に従事した。</p> <p>本職業訓練コースを受講した 44 名全員が 85%以上の出席条件を満たし、コースを修了することができた。当初申請書においては、インターンシップを修了したタイミングで修了式を行い、既定の基準を満たした受講者に修了証を発行する予定であったが、コースによってインターンシップ終了時期が受講者によって異なることがあったため、後述の全コース共通の事例共有会にて修了式を行った。</p> <p>2-5 ポストアセスメント・受講者フォローアップ</p> <p>2021 年 8 月下旬から 9 月にかけて、個別の聞き取りを通して全受講者（以下、修了者）計 44 名対象のポストアセスメントを実施した。ポストアセスメントにおいて、コース修了者全員からコースが生計能力・コミュニティ連携の向上に効果的であったとの回答を得た。またコース修了者計 44 名の内、32 名 (73%) がコース修了後に収入の機会を得たと回答した²。なお、コース修了後に収入機会が得られていない者も含め、第 2 年次で第 1 年次の修了者のフォローアップも実施予定である。</p> <p>受講者フォローアップにおいては、2021 年 10 月 20 日に全コース共通で修了式と事例共有会を実施し、コース修了者 44 名の内、美容・整髪技術コースは 12 名中 9 名、住居修繕技術（電気・配管）コースは 20 名中 14 名、リーダーシップコースは 12 名中 7 名が出席した³。事例共有会では、コース修了後に収入機会が得られていない修了者の参考にしてもらうため、成功事例のノウハウを修了者自らが発表する機会を設けた。</p> <p>また、第 2 年次実施に向け、コースカリキュラムの改善や第 2 年次計画への専門知見の提供やインプットを行ってもらうため、現地で職業訓練専門家を募り、活動（イ）に従事する PWJ 職員ならびに職業訓練コースの講師を対象とした対面でのトレーニングを 2021 年 10 月に実施した。</p> <p>加えて、活動（イ）の職業訓練コースの内容や成果をまとめ、現地において事業広報を行うことを目的とし、リーフレット形式の事業広報資料（英語・アラビア語併記）を作成した。作成した事業広報資料は、ドホーク県労働社会局やシャリヤ地区自治体、第 1 年次の活動（イ）で連携したシャリヤ町の CBO（Community Based Organization）であり、支援調整団体である Lalish Center、職業訓練コースのインターンシップ受け入れ機関、シャリヤ国内避難民キャンプのキャンプマネジメント、シャリヤ町のムクタール（コミュニティリーダー）、そして活動（イ）のコース修了者に配布した。本資料の配布により、広く本活動の認知と理解促進を広めるとともに、第 2 年次の潜在的な職業訓練コース受講対象者やインターンシップ受け入れ機関、同コース修了者の潜在的な雇用主が本活動を認知・理解することが期待される。</p>
（３）達成された成果	<p>（ア）シャリヤ国内避難民キャンプ水衛生支援</p> <p>[期待される成果]</p> <p>住民参画による水衛生環境の維持・改善のための体制・手順が整理・文書化される。</p>

² 職業訓練コースの受講者 4 名の声を紹介した当団体ホームページのリンクは以下のとおり：
<https://peace-winds.org/activity/iraq/20456>

³ なお、出席が叶わなかった 14 名については参加した修了者から修了証を渡してもらい、後日当団体スタッフが個別にコンタクトを取り、修了証の受領確認を行った。

	<p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>住民参画による水衛生環境の維持のための体制については、キャンプ内より 30 人の作業員（水衛生ワーカー）を雇用し、それぞれの担当業務とレポーティングラインについては文書化し、当団体スタッフの監督のもと、キャンプ住民が主体となって水衛生支援を行う体制を整理し、機能している。また、各業務内容の整理改善のための SOP について整理・文書化を行った。</p> <p>[成果を測る指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な水へのアクセスについて、量及び水質⁴の両面で常にクラスター基準が維持される。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>本事業開始後から終了時まで毎月クラスター基準が維持できた。また、各月の量及び水質検査結果をキャンプマネジメント及び水衛生クラスターに報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共トイレが維持管理され、常に 20 人あたり 1 トイレのクラスター基準が維持される。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>本事業開始後から終了時まで毎月クラスター基準を満たす公共トイレ数について維持管理を継続した。また、各月キャンプマネジメント及び水衛生クラスターに報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水衛生支援の各作業の SOP が取りまとめられる。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>水衛生支援の各作業の SOP を取りまとめた。</p> <p>(イ) 生計能力・コミュニティ連携向上</p> <p>[期待される成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職業訓練コースのプレアセスメント、コース実施、インターンシップ、ポストアセスメントまでの活動モデルが構築される。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>職業訓練コースのプレアセスメント、コース実施、インターンシップ、ポストアセスメントまでの活動モデルを構築した。</p> <p>[成果を測る指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コースのカリキュラム及び教材が取りまとめられる。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>全 3 コースのカリキュラム及び教材を取りまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 修了者がポストアセスメントにおいて、コースが生計能力・コミュニティ連携の向上に効果的であったと回答する。 <p><u>本事業終了時の達成度</u>：100%</p> <p>修了者全員がポストアセスメントにおいて、コースが生計能力・コ</p>
--	--

⁴ 一人一日当たり冬期 50L、夏期 80L。残留塩素量（FRC）0.2-2mg/L

	<p>コミュニティ連携の向上に効果的であったと回答した。</p> <p>また、本事業の「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果の視点においては、目標 1 に掲げる貧困解決につき、生計能力向上により強靱性(レジリエンス)の構築に貢献した。また、(6. b) 水衛生に関わる分野の管理向上への地域コミュニティの参加を支援・強化する活動を行いながら、目標 6 の安全な水と衛生へのアクセスを改善し、持続可能な管理を確保する活動を行った。女性の能力強化とコミュニティ連携活動への参画支援により、ジェンダー・ギャップの縮小にも貢献した。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業は複数年事業の第 1 年次であり、第 1 年次で達成した成果を第 2 年次で活用・更新し、第 2 年次の事業実施を通して、ドホーク県シャリヤ地区の若者・女性がより自立して生活できるよう、住民参画を通した国内避難民キャンプ水衛生環境の維持・改善、コミュニティ連携強化、生計能力向上が持続的な形で継続されるための体制を整える。</p>